

『ふるさと甚目寺「かかわる」「つたえる」「つながる」

－ E S D の視点に立った教育活動－』

あま市立甚目寺小学校

1 目的

甚目寺小学校では、学校教育目標「善く生きる子」にせまるために、平成22年度からESDに取り組んでいます。「ふるさと甚目寺」をキーワードに人と人とのつながり、人と地域とのつながりを大切にし、持続可能な社会を築くための人づくりを中心に活動を組み立て、人や地域と積極的に「かかわろう、伝えよう、つながろう」とする児童の育成をめざしています。今年度も、引き続き持続可能性のある自己肯定感の高い児童の育成を重点目標として教育活動を進めています。

2 内容

(1) 人とつながる活動

ア 人間関係づくりのための体験的活動

高学年の児童を中心に自分の感情を言葉で表現してどのように伝えていくとよいかを学び、人と接する態度の向上を図るためのハッピートークトレーニング、自分の意見や気持ちをその場にふさわしい表現で伝え、相手との良好な関係を築くためのアサーショントレーニングに取り組みました。

イ 心を育てる活動

名古屋児童文学「波の会」のみなさんをお迎えし、ストーリーテリングをしていただきました。学年に応じた物語を厳選し、語りかけてくださるので、子どもたちは、お話の想像の世界に引きこまれ、豊かな時間を過ごしました。教師も人を引きつける語りを学ぶよい機会になりました。

(2) 地域とつながる活動

本校では、総合的な学習の時間を中心に各教科・道徳・特別活動などに関連づけながら、地域を舞台に学習を進めています。各学年、地域の様々な方と交流し、出前授業を受けたり、学んだことを発信したりしています。5年生は、3年ぶりに刷毛や野菜作りの出前授業を受け、甚目寺の産業について考えを深めることができました。



刷毛の出前授業

また、6年生は甚目寺で活動されている、もくもく座による説教源氏節や校区内に生家がある小笠原登博士についての出前授業を受け、さらに地域の歴史・文化についての理解を深めました。

（３）世界とつながる活動

ア 世界寺子屋運動

児童会が中心になって、ユネスコが進めている世界寺子屋運動に参加し、教育施設の建設や運営に役立つ書き損じはがきキャンペーンや募金活動に協力しました。

イ S D G s を意識した教育活動

6年生がSDGsコミュニティ代表理事の新海葉子先生の出前授業を受け、自分たちが行っている「ふるさと学習」をなぜ行うのかについて深く考えることができました。各自が甚目寺の現在や未来だけでなく、世界ともつながっていることを意識しながら、様々な問題や課題等を考え、総合学習発表会では、『未来へつなげ!!「ふるさと甚目寺」



～20年後も住みたいまち～』というテーマで発表しました。また、6年間の学びの集大成として各自が自分の考えを新聞形式にまとめ、文集に残しました。

（４）教師の力量向上

今年度も少経験者を中心に、講師を招いて算数の指導法を学びました。指導案作成、前時からの継続した授業実践、事後検討会まできめ細かな指導をしていただきました。また、SDGsコミュニティ代表理事の新海葉子先生をお招きし、「ESDとは ユネスコスクールとは SDGsとは」をテーマに研修を行いました。

3 評価

出前授業や体験活動を通して、本物に触れることで子どもたちは、すばらしい発見や気づきをし、興味・関心をさらに高めることができました。また、教職員が大きく入れかわる中、本校が海部地区唯一のユネスコスクールであることを確認し、学年ごとに、日頃から行っている「ふるさと学習」のテーマを明確にもち、1年の見通しを立てて、これまで築き上げられた地域とのつながりを大切にしながら ESD を推進していこうという気持ちを確認することができました。

4 課題

感染症の拡大に伴い、一時中断していた人とかかわる活動、とりわけ地域に出向いての活動が少しずつできるようになりました。今後、これまでに築き上げられた「人・もの・こと」とのつながりを大切にしながら、内容の見直しを図って活動を継続していきます。

また、SDGsをさらに意識させることで、自分たちが地域・そして世界につながっていることを理解し、自らの生き方を見直して、地域のために、さらには国や世界のために行動することができる『善く生きる大人』へと成長できるよう教育活動を進めていきます。